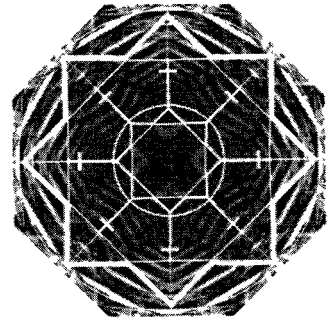


## 栄光の十字架、復活したイエスのしるし

光輝く“一つのまとまり”は主の最も基本的なシンボルである。十字架の矢はエルサレムの高さ、つまり  $6 \times 123, 738\text{m}$  にまで達し、幅は  $42\text{m}$  で  $123\text{m}$  の両腕を持つ、とイエスは言う。直径  $30\text{m}$  の柱の内部は、エルサレムにある神殿の至聖所のように空洞である。神は唯一であり、復活した救世主、その栄光の十字架も唯一である。

地面の“2”つの輪、つまりひとつは十字架の周り  $333\text{m}$  の輪、もうひとつは神殿の周り  $288\text{m}$  の輪は、イエスと教会との結合の場を表す。

“3”は十字架の格子と網目構造を表す。この3角形は、神の栄光、私達の聖体顕示台と、神の御名、ヤーヴェ=“私は在る”つまりひとつであり、3位一体の全てに勝る御名が刻まれている祭壇あるいはペジメント(切妻壁)の輝きを私達に思い起こさせる。“3”は十字架先端のバラ型装飾のことで、金の数が全体のフォームを左右する。



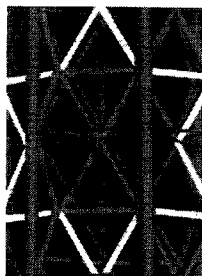
“4”は正方形を2枚重ねて作った復活の3つの星を表し、十字架の3つの先端に2個ずつ置かれる。この12枚の正方形は『私は、私は在る、という者である』という神の名(ヘブライ語)を想起させる。けれどもまた、イエスは肉体を持つと言う意味での受肉、つまり土、水、火、空気、という地上の物質4元素であり、また、黙示録4章6節の《目で覆われた4つの生き物》の上に位置する精神的なもの、契約の箱にある4人のケルビムや、福音書の著者4人の守護天使、つまり、雄牛(非去勢)、鷲、獅子および天使などである。

“6”は人間を表す数字である。聖ミカエルのメッセージは6回である。十字架内部にある小さな冠状格子の中に、見出される六角形であり、ダビデおよびカルメルの星である。それは、ダビデの息子、ヨセフとマリヤの息子、受難する僕の贖いの数字である。彼は、私達を黙示録13章18節の《その数字が666》である獣、原初の蛇から開放するため、《罪に定められた》。

“8”はオーベルニュ地方にあるローマ時代の教会にあるように、復活した救世主のシンボルである。19世紀にデュラン司祭によって建てられた小教区の教会、ドズレ

のノートルダムの正面には 8 つの十字架のバラ窓(北)がある。この星は、石突き of 3 つのバラ窓中央に位置している。ベツレヘムの星、十字架のいばらの冠、復活の十字架。それは、救世主の教であり、忠実で真実なるもの(黙示録 19 章 11 節)は、獣、あらゆる艱難、あらゆる死に打ち勝つものである。救世主イエスのしるしは 888。

“12” は神の民のシンボルである。イスラエルの 12 部族およびイエスの 12 使徒に因る。十字架は 738m の 12 の柱と  $123 + 42 + 123 = 288m$  の 12 の横木からなる。“23”本のバーが高さ 574m と 615 m の間に置く 12 本の横梁を結びつける。エルサレムの小法廷は 23 人の司祭で構成されている。



“24” この梯子が十字架を支え、そのうち 12 本は宙に向かって立つ。残りの 12 本は東から西へ 574m の高さのところで横にわたされる。梯子の段の幅は 10.78m で、段と段の間は 13.63m 間隔である。創世記 28 章 12 節のヤコブの梯子を思い起こそう。そこから神の天使が登ったり降りたりしたのである。『まことに主がこの所におられるのに、私はそれを知らなかった。』『この場所はなんと恐れ多いことだろう。こここそ神の家にはかならない。ここは天の門だ。』

“55” 個の段が、十字架内 12 本の梯子の中にあり、天に向かって登る。メッセージの数も 55 である。“71” はエルサレム最高法院にいる司祭の数であり、諸国民の広場に置く聖職者の座席数になるであろう。“153” は十字架の 12 本の支柱を取り巻く輪の数である。昼間は真っ白な、夜は光輝く雲のような光の輪が巡礼者の上に聳え立ち、またそれは地上にある神の花嫁、イエスの新婦、その教会から立ち昇る、祈りの刺繍のようでもある。それはモーセにとっての燃え盛る柴であり、聖霊降臨(ペンテコステ)の日に吹いた風の中の燃える炎でもある。それは、イエスの再臨のために備えられたその洗礼の時に降りたような、羽を広げた白鳩である。それは、新郎と新婦、キリストとその教会との結合である。これは平和を告げ知らせる大いなるしるしである。聖ヨハネ(黙示録 22 章 17 節)とマドレーヌ・オモンは祈る:『御霊と花嫁は言う、来てください。アーメン、主イエスよ来てください。』

1998 年 10 月 13 日 AM.D.B.

## 和解の神殿、団結のしるし

イエスはその神殿の中で、11 使徒、マタイ、パウロ、バルナバ、使徒中の使徒マグダラのマリアと使徒達の女王聖母マリアから始まった教会同士を和解させ、結び合わせたいと望んでおられる。この神殿は聖なる、聖別された、神聖で、神に捧げられた場所である。多くの大聖堂がそうであるように、この神殿は聖ヨハネの黙示録 21-22 章から着想を得ている。長さの単位はクデ(約 45-52cm)である。高さ、長さ、幅が 144 クデある。それは完全なる神の愛を意味する。壁は透明で、土褐色で水晶のように光を通す碧玉からなる。

そこは神の家から降りてくる《神の住まい》、《聖なる都》、《神の婚約者》、《天上のエルサレム》である。3 辺の長さが同等であるのは、いと高きところから来る天からの賜物、キリストの愛の長さ、聖霊の愛の広さを示している。さらにまた、三度聖なる三位一体の神における創造の象徴であり、また聖霊の柔らかな息吹の中に成った、神の御子の受肉を象徴するものでもある。

神殿は 12 使徒の上に建つ教会のように建てられる。この神殿は、真珠の形をし神の民である 12 部族の名を掲げた 12 の扉から全ての国々に開かれている。使徒たちの 12 の座席はそれぞれ使徒たちがそうであるように、異なった高価な石で出来ている。使徒たちはそれぞれ大祭司の、つまり私達にとってはキリストの胸飾り石を掲げている。ヘブル語では 12 は『言葉の探求』を意味する。それは神の御言葉の聖書的、福音的探求である。

天使が一人ずつ神殿のドアを守っている。聖書に書かれているように、3 天使と 9 つの天使階級の隊がある。つまり、熾天使、智天使、座天使、主天使、権天使、能天使、力天使、大天使、天使。天蓋が神殿を覆う。それは、神によって新しくされた《天から降りてくる土地》の神聖な姿である。高さ 90 クデ、つまり 45m である。平面地球図の天頂はエルサレム、つまり世界の極である。

1 m の円環を加えて、神殿の高さ 123m となり、それはイエスによって示された十字架の両腕の長さでもある。そして、エルサレムの十字架が頂上に建てられ、7m の高さを加えて神殿の先端まで 130m となる。(ローマの聖ペテロ聖堂は 132.50m である)エルサレムのある場所に置かれた十字架は、世界一の教会であることを想起させ、4 つの小型九天井は 4 人の福音書記者たち、あるいは、世界でひとつの聖なる公会堂であり、使徒たちが創設した、最初の 4 つの司教区ーローマ、コンスタンチノーブル、アレクサンドリア、アンティオケをも想起させる。

1998 年 7 月 21 日 J.C., D.B.

ドズレの《栄光の十字架》、和解の神殿建設および清めの池 実現可能性について

## I. 高さ 738m の光輝く十字架

1992 年以来、リソース協会のメンバーは、専門家と共に栄光の十字架建設プロジェクトの実現可能性について調査した。クリスチャンのシンボルを現す建造物として相応しいように、このチームはイエスより与えられた高さ 738m、横幅 288m(123m の両腕と支柱分 42m)の十字架を、張線で固定する方法を研究した後、結局鋼鉄のシェル構造建築を採用することにした。

十字架の胴体は、2 重の冠構造からなっている。外側の冠は底面で直径 2m、頂上では直径 40cm の 12 本の支柱からなる。内側の冠は 30.49m の輪の上に置かれ、正三角形 12 個から成るメタルチューブによってそれぞれ結ばれている。両腕は全部で 2,644 個、つまり  $3 \times 888$  個の正三角形が十字架を構成する。この 2 つの冠構造は水平、垂直方向に三角形構造で結ばれている。同じ構造の両腕が胴体を通して繋がっている。

この構造を持つ 3 つの雛型(十字架)が作られた。ひとつは 250 分の 1、つまり 2.95 m の高さで、エソンのサントバンに、もうひとつは 100 分の 1、つまり 7.38m の高さで、ピュイ・オ・エロンの交差点、ノルマンディーのオルヌにあるロンレ・ル・テソンの戸外に建てられた。もうひとつは、世界中の 4000 人の青年達から法王に贈られた。

### ・十字架の構造

金属製建築技術研究所(CTICM)にてこの建造物の静態および動態寸法の測定を行った。このフランス政府公認研究所は、このような建築物が実際に建造されるために使用されるチューブ構造を見出した。この十字架全体の重量は 8 万 8 千トンに及ぶ。

フランスの溶接研究所は、使用する鋼鉄の強度とチューブの製造方法について分析検討した。そして、海上オイルプラットフォーム建設の際に使われるのに似た方法が、この建築にも使えることがわかった。結論としてこのような十字架を 1000 年以上持つように建設することが可能であることが分かった。

カナダ、ウエスト・オンタリオ大学のダベンポート教授の実験室にて行われた風洞実験の結果、時速 250km の風に対して 2 倍の抵抗力を持つことが分かった。この十字架は時速 350km の風力に抵抗し得るため、この地域で実際の風力は最大 169km と観測されているこの建築の十分な安全性が証明された。

1999年には次の3点について研究がなされた。

霜による影響、1000年後の金属疲労による影響、大気中持久力を測るための別のモデル。

建築はすでに製造されている部品を使って、クレーン車で持ち上げられそれぞれの位置に取りつけられる。総重量 6000 トンの両腕は、地上で作られた後胴体に取り付けられる。引退したプロの溶接工が簡単にこのような作業を行うであろう。建築に要する日数は 14~18 ヶ月と見積もられている。チューブと鋳型で作られた結び目（ノット）がいつ供給されるかは世界中の製鉄業者の製造能力にかかっている。

頂上まで白く光輝く照明方法は、照明会社によって確認されている。

#### ・地盤の状況

メッセージによると、この十字架の建造場所はドズレの街外れ最大高度が 113.50m のところとされている。150m の深さのボーリング調査によって、この地下は水平重層構造であり、力学的に大変良好な地層で地下水層がないことが明らかとなった。

十字架が動く際 (270 万トンメートル) に生じる影響を吸収する最適の基礎工事方法も考案された。深さ 54m のコンクリート板、直径 123m の円形冠状の地盤で、24 個のケーブルからなる放射状シェル構造である。

整備範囲は 32,000m<sup>2</sup> に及び、ノアの箱舟になぞらえて、4 階建て構造が計画されている。

0 階(地上階)	標高 103m	受付、情報コーナー
-1 階	標高 95m	会議場、オーディオビジュアル
-2 階	標高 87m	巨大な回廊 (サービスコーナー、展示場、戸外への通路)
-3 階	標高 63m	祈りの場：中央聖堂と信者で一つのバラ形を形成する放射状に作られた 12 の礼拝堂

これらの基礎工事は SIMECSOL グループが Freyssinet 社および Bachy-Solétanche 社との協力のもと提案された。暖房と空調は BETAM 社によって提案された。たとえ地震があってもこの構造建築は持ちこたえるであろう。最終的な計画が纏まるまで、あと 8 ヶ月を要し、その後公開入札が行われる。建築工事期間は 15 ヶ月。

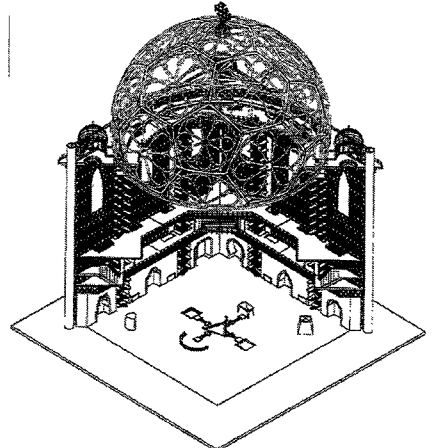
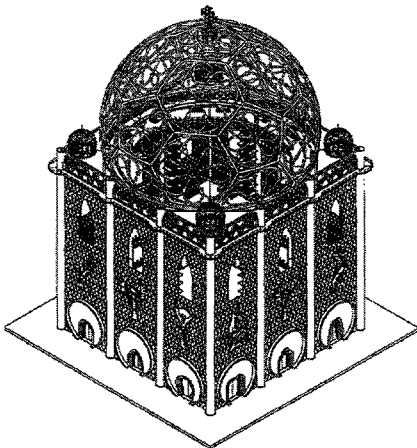
## II. 和解の神殿と、周りの環境

和解の神殿の設計は、聖書ヨハネの黙示録から採用されている。正方形の基礎は 144 クデ、つまり外周 75.40m、内周 72m となる。身廊は水晶のように透明な碧玉色のガラスでできており、12 使徒の名が付けられた 12 本の支柱によって支えられている。その上に、153 の花卉を持つバラ窓の形をしたメタル構造のガラスの天蓋(ドーム)がかぶせられる。そのドームには世界の大陸が全て描かれている。大陸はまるで天から降りてきたかのように見えることであろう。聖都、天のエルサレムのイメージで、その頂点にエルサレムの極がある巨大な天蓋は 122m の高さに達する。さらに、1m の司教の指輪と 7m の十字架で高さ 130m に達する。四隅に 4 つの小型天蓋 - 4 つの生き物の一つ一つを現す - が置かれ、天の丸天井と見立てる。12 の扉は 12 の真珠のようであり、その上に 12 天使、さらに登ってマドレーヌ・オモンが見たキリストの生涯を表す 12 のガラス窓が据えられる。153 の天使が描かれた円柱が立つ歩廊が全体を取り囲む。

内装は 3 階の歩廊からなり、そこから中央に 7 つの秘跡を行う場、御臨在の幕屋、ミフラーブをその中に持つ神殿全体を見渡すことができる。

構造デザインおよび最終案前の計算は全てなされた。空調システムについても考察がなされた。

神殿の足元に約 2 ヘクタールの諸国民の広場が作られ、エルサレム寺院の歴史にちなんで外装が施される。そこでは 4 万人を収容して大規模な儀式を行うことが出来る。献花場も設置される。



### III. 清めの池と諸国の民の父の鐘楼

清めの池は第3番目の聖地である。これはイエスが教会に求めたものである。この池は、十字架の東側の腕から 100m のところに位置する。栄光の十字架の中心から  $21m+123m+100m = 244m$  である。

諸国民の父の鐘楼は清めの池を告げ知らせる。これは父なる神への敬愛を示すため作られる高さ 170m の鐘で、メッセージの中でイエスによって語られた 9 日間祈禱に着想を得た。この鐘楼は神の御臨在を示すため清めの池から同じ座標軸上に据えられる。153 の鐘のうち、9 つは内部に振子の入った鐘、72 個のカリヨン(組鐘)が 2 組置かれる。これらの鐘は、諸国の名において作られる。一番大きい鐘は中国、インド、154 番目の最も小さい鐘はパチカンである。鐘芸術および世界中の音楽専門家達が共に働き、世界中の音が奏でられるように設計される。トーン、半音、アラブ、インド、中国、クメール、センドロ、ペロック、パリの四半音を鳴らせるようにする。この場所はまたショファー(ユダヤの楽器)などの楽器を置く場所としても使用される。

### IV. 聖ヨセフ礼拝堂

聖ヨセフ礼拝堂にはイエスが 41 回、聖ミカエルが 3 回お現れになった。イエスはマドレーヌに、イエスが彼女の目の前から消えたその場所にろうそくを置くように、そして『この礼拝堂に来るものは皆あなたを真似るように』と、1974年5月31日第17回目のご出現の時に言われた。その場こそ、前世紀に主任司祭デュランが絶え間ない礼拝を捧げるようにと望んだ場所であり、その願いは今巡礼者によって受け継がれている。

-----

このようなプロジェクトにはどの程度の費用がかかり、誰が払うのか？

1999年9月30日に行われた実現可能性に関する調査費用は総計 286万 4423 フランに上る。この費用は、リソース協会のメンバーおよびその仲間による献金で全て賄われ、巡礼者には献金の呼びかけはなされなかった。巡礼者によって入金された 10万 68.10 フランは教会の決定を待ちながら、ドズレのクレディ・アグリコル銀行に預けられている。何 10 億フランとも見積もられているこのプロジェクトのための投資資金

は全世界に向かって協力を呼びかけることによって調達されるであろう。年間 3 億フランと見積もられている運営費用は、場所を清潔に保ち、借入金を返済するのに必要なだけの十分な余裕を持って、聖地巡礼関連の収入によって賄われるであろう。

**ドズレの地域社会にこのプロジェクトはどのような影響を与えるか？**

現在のところ、栄光の十字架が現れたドズレの丘に毎年 1 万 5 千人以上の巡礼者が訪れている。

観光に関する詳細な調査によると、世界の巡礼旅行は強い増加傾向にある。このプロジェクトが完成すれば、ドズレは年間 250 万から 500 万の旅行者および巡礼者を迎えるであろう。これによって、近隣の聖地にも良い影響を与えるであろう。特に年間 150 万人の訪問者を迎えるリズゥーおよび 700 万人を迎えているモン・サン・ミシェル。

現在建てられている、高速道路やホテル、キャンプ場などの施設は、かなりの数の客を収容することが出来るであろうが、さらに必要と考えられている 1 万 5 千床の宿泊施設を建てるだけのスペースもドズレ近郊に確保され得る。年間 25 億フランの総売上をこの地域にもたらすことになるであろう。つまり、建設要員として 8,000 人、過去 20 年間にこの地域(ペイ・ドージュ)で失われた 5,000 人分の雇用が毎年運営要員として再創出されることになる。このプロジェクトに関する詳細な記述は、ウェブサイトで見ることができる。 <http://www.ressource.fr>



1999 年 8 月 7 日 HH, AD, AG, DB

*ダニエル・ペロー司教、ドズレに関する調査委員会会長で、リズゥーにおける  
ミッション・ド・フランス教授、ガイド・スカウト付司祭ついでパリ主任司祭となった。*

*1999 年 8 月 2 日に天に召され、8 月 6 日埋葬された。*